

企 画 書

提出日 平成25年5月9日

企画名： いわき市勿来地区の津波被災者が実体験を未来に遺すタイムカプセル事業	
提案者： 館 敬	所属： 特定非営利活動法人 勿来まちづくりサポートセンター
企画目的： 東日本大震災の実体験の記憶を未来に遺し将来に渡り地域防災に対する心構えを伝えていくことを目的とします。	
予算（事業費予測）： 12,600,000円	
事業期間： 平成25年4月1日 ～ 平成26年3月31日	
企画内容： 勿来地区の津波被災者 642 人の実体験の証言を本人が語る録音と映像で記録し、データ整理を行いタイムカプセルに収納します。また、その証言から地域の記録として冊子を編集します。 証言収集には、筑波大学の学生を中心とする Tsukuba for 311 が作業にあたります。タイムカプセルの設計製作には東京藝術大学が受託研修として担当していただきます。	
企画成果： 震災から 2 年が過ぎ津波を体験した被災者も借上げ住宅に住んでいるとはいえ、徐々に平常な生活状態に戻りつつあります。震災の貴重な体験もそれに伴って薄れつつあり、また高齢者も多いことから、今その体験したことや避難の現実、自然災害の恐ろしさや復興に対する思いと地域で出来る防災への対策と心構えなどを 20 年後に地域で生きる自分の子供や孫達にその声と映像で伝えることで、地域防災への意識を高め、今後起こりうる災害に対し最小限の被害に抑えることが可能になると予測されます。	
先見性： 東日本大震災の被災地において、新しいまちづくりに取り組み具体的な事業として活動している地域はそう多くはないと思います。勿来地区は被害の規模も他県に比べれば小さく原発による放射能の影響も軽い地域なので、ここから東日本大震災の新しいまちづくりに向けた復興が始まるモデル地区にしたいと思っています。 タイムカプセル事業は、これから行われる防災緑地の利活用にも関係があり復興メモリアル公園の建設に向けた重要なアイテムとして、保存してある防潮堤と共に観光資源の一つとして期待されます。	
備考：添付書類等 ・趣意書 ・タイムスケジュール表 ・予算書	